

登録コード	UAC29500	開講年度	2026				
授業題目	日本語学研究Ⅰ					担当教員	中澤 光平
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6UAカリ・総人社・人間文化学，2 5UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	日本語の歴史を学ぶことを通じ、言語変化の理論的知識を身につけるとともに、日本語に起きた、あるいは起きている変化について歴史言語学の観点から分析し、自分自身の論を展開できるようになる。
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	日本語学についての先行研究あるいは日本語で書かれた文献を渉猟し、言語学・文献学に基づいてそれらのテキストを分析する方法論を体得するとともに、社会学や心理学など言語学と関連のある学問分野の考えを応用して立体的な考察ができるようになる。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	言語に関する知識をもとに、言語変化を社会と関わる問題としてとらえ、言語学のみならず社会学や心理学などの視点を含め多角的に考える力を養う。
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。					⇔	日本語の歴史言語学的研究を通じて、言語についての知見から、人間社会を俯瞰的に観察できる能力を涵養する。
(2)授業の概要	日本語学研究Ⅰは日本語史について。つまり日本語を歴史言語学の観点から分析する。日本語に限らず全ての言語は変化する。しかし言語変化は決して不規則ではなく、何らかの傾向が見出せる。授業担当教員がこれまで扱った自身の研究事例を中心に日本語の通時変化について紹介しながら、歴史言語学という学問に基づいた言語変化の考え方を学ぶ。授業理解に基づき、受講者が課題発表で十全な説明ができるようになることを到達目標とする。 上記目標達成のため、授業形式は、教員による講義・質問と受講生による質問・課題回答とを往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。受講生にはテキストの読み込みや、理解を促すための課題を課す。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス：この授業で扱うこと 第2回：日本語と音変化（講義） 第3回：日本語と音変化（課題発表） 第4回：日本語と形態変化（講義） 第5回：日本語と形態変化（課題発表） 第6回：日本語と統語変化（講義） 第7回：日本語と統語変化（課題発表） 第8回：日本語と語彙変化（講義） 第9回：日本語と語彙変化（課題発表） 第10回：日本語と意味変化（講義） 第11回：日本語と意味変化（課題発表） 第12回：日本語と語用の変化（講義） 第13回：日本語と語用の変化（課題発表） 第14回：日本語と表記の変化（講義） 第15回：日本語と表記の変化（課題発表） 定期試験は実施しない						
(4)成績評価の方法	各課題発表回で行うプレゼンテーション（50点）とディスカッション（50点）で、到達目標への到達度を評価する。						
(5)成績評価の基準	歴史言語学的方法を方法論としてどれほど体得できたか、研究実践として用いられるようになったかで判定し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。						
(6)事前事後学習の内容	1）授業担当者による講義の回に出された課題に対する回答を、受講者は課題発表の回に報告する。 2）課題発表のための事前準備には、下記参考文献や授業内で紹介した参考文献などを用いること。 3）必ずレジュメを準備すること。（パワーポイント利用は任意） 4）利用した参考文献は全てレジュメに明記すること。						
(7)履修上の注意	無断欠席・遅刻は厳禁。 やむを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。						
(8)質問、相談への対応	授業外での質問は、メールでアポイントメントをとった上で、研究室を訪ねられたい。 メールアドレスは、kohein@shinshu-u.ac.jp。						
【教科書】	使用せず、授業中にプリントを配布する。						
【参考書】	沖森卓也（編著）（2010）『日本語史概説』朝倉書店 林由華・衣畑智秀・木部暢子（編）（2021）『フィールドと文献からみる日琉諸語の系統と歴史』開拓社 平子達也・五十嵐陽介・トマ ペラルール（2024）『日本語・琉球諸語による歴史比較言語学』岩波書店 衣畑智秀（編）（2023）『基礎日本語学 第2版』ひつじ書房 アントワヌ・メイエ（松本明子編訳）（2007）『いかにして言語は変わるか』ひつじ書房						